

教育費をどう考えるか②



■ 教育費はどうやって準備していくのか

学費の準備としてすぐに思いつくのが学資保険やこども保険でしょうか。子どもの教育資金の準備を目的とし、将来の学費が貯められて、万一の保障も得られる「保障」と「貯蓄」が一緒になっている商品です。貯蓄性のある保険といわれます。契約者である親が死亡した時は、それ以降の保険料の払い込みは免除になり、設定した満期になれば保険金は満額受取れます。育英年金や養育年金といって、毎年、遺族年金が支払われる特約をつけられるものや子どもの医療保障をつけられるものもあります。

生命保険の保険料は、今のように市場の金利が低い時には、予定利率が低くなるので、高くなります。保険料は、あらかじめ一定の運用利益を見込んで割り引かれていて、この割引に使用する利率を予定利率といいます。言い換えれば、予定利率は、契約者に約束する利回りで、運用環境によって変化します。保険料の割引率でもあるため、利回りが下がるほど将来、契約者が支払う保険料負担は増すことになります。景気がよくて高く見込むことができれば、保険料は安くなります。現在、貯蓄保険の利回りは、過去最低水準になっています。早い時期に加入すれば、保険料を支払う時期が長くなって、その分保険料は安くなります。でも、予定利率が低い今、中には元本割れをする商品もあるので注意が必要です。

教育資金は、必ず必要になるので、ある程度強制的に作っていくことが大切です。その点、保障もあるので安心、という考え方で加入するのにはいい商品だと思います。保障が充実するとその分、貯蓄性は低くなりますので、保障がシンプルで返戻率の大きな商品にしましょう。例えば、父親が30歳男性で、子どもが0歳の時に保険金額300万円の保険に加入したとします。満期は18歳です。利回りにあたる満返戻率を比較してみると、111%前後を最高として、下は85%くらいと商品によって様々でした。100%以下は元本割れをすることということです。一時払いで加入すると利率がアップする商品もあります。

■ 子供が生まれたらすぐスタート

大学の費用は、国公立か私立か、自宅通学か自宅外通学か、文系か理系かによって大きく変わってきます。高校3年生の受験シーズンまでに、受験費用も含め500万円～800万円くらいを目標にしたいものです。子どもが2人いれば2倍ですので、更に大変です。しかし、教育費は必要な時期も決まっていますので、計画をたてて準備していくことができます。基本的には、高校までの費用は、生活費から賅っていき、貯めたお金は大学資金に充てるようにするとよいでしょう。

まず、子どもが生まれたら、月々2万円くらいは貯蓄をしていくようにしましょう。17歳までで400万円を貯蓄することができます。合わせて、貯蓄性のある金融商品などを利用することになります。100万～200万円なら、返戻率の高い学資保険やこども保険を選んで利用してもよいと思います。低解約返戻金型生命保険なども利回りが高めです。ただし、早期に解約すると大きく元本割れをしますので注意してください。

10年個人向け国債もおすすです。2011年6月募集分から、利率設定方式の変更で、低金利時代において、やや高め
の金利が狙える魅力的な商品になりました。10年個人向け国債は、当初1年間は原則として換金できませんが、1年据え置
けば、過去1年分の税引き後の利子相当額を中途換金調整額として支払えば、自由に換金できます。価格変動リスクはなく、い
つ換金しても元本は保証されています。

もう少し、高い利回りを目指したければ、準備期間が十七年間もあるということを考えて、一部を投資信託などで運用するの
も方法です。全てを預貯金で積み立てるより、効率よくお金を増やしていくことができます。投資信託を毎月一定額ずつ購入し、
積立投資していく方法です。しかし、進学前に、リーマンショックのような変動があれば損失は大きくなります。使う時期の決ま
っている教育資金として考えるのは一部にしてください。長期投資で個人投資家の資金づくりのお手伝いをしたいという理念を
もってファンドを運用している「直販投信」などを利用するのもひとつだと思います。

最近では、晩婚化の影響もあり、五十歳代で、教育費のピークを迎える人も少なくはないでしょう。住宅ローンと、老後の準備と
トリプルで家計に重くのしかかってくることも考えられます。また、今は、子どもの世界もなかなかストレスフル。事情が変わって
進路の変更をせざるを得ないということもありますし、留学や浪人などをすれば更にお金はかかります。どこまで子どもの希望
を叶えるかということもありますが、子どもの希望やライフプランが変わっても対応できるように、準備をして頂きたいと思いま
す。

■ 教育ローンや奨学金の利用も

奨学金制度は、保護者が借り入れるのではなく、子どもが借り入れる制度です。独立行政法人日本学生支援機構、公益財
団法人東京都私学財団の他、各大学や専門学校にも独自の奨学金制度や特待生制度があります。奨学金が給付ではなく貸
与の場合は、返済義務があります。卒業してから返済していくことになります。

教育ローンも選択肢の1つです。教育ローンは、親が借入れますが、返済を、元本を据え置いて、卒業後に子どもが返して
いくこともできます。日本政策金融公庫の「国の教育ローン」は、子ども1人につき最大300万円まで借入をすることができま
す。基本的には1年中申込は可能です。

子どもを育てるのは金銭的には大変ですが、それには代えられない喜びや幸せもたくさんあります。コツコツがんばっていき
ましょう。

〈著者プロフィール〉

岩城 みずほ 氏

オフィスベネフィット代表。ファイナンシャル・プランナー。CFP®認定者。DCプランナー。日本FP協会会員。

慶應義塾大学卒。NHK松山放送局を経て、フリーアナウンサーとして14年活動。報道番組、パブリシティ番組、選挙特番
などの他、BS、ラジオ、各種司会、リポーターを務める。その後、セミナー講師に。大手銀行、保険会社などのコミュニケ
ーション研修のためにファイナンシャル・プランナーの資格を取得。生命保険会社を経て、2009年に独立。

得意分野は、保険と資産運用。「未来の『安心』と『豊かさ』を一緒に考え、共に成長していくこと」をモットーに、セミナー、
執筆、個人相談を通して、さまざまな情報、サービスを発信し続けている。

マガジンハウス出版『お金の鉄則(仮題)』3月刊行予定、同文館出版『私、いったい、いくら貯めたらいいんですか？
(仮題)』4月刊行予定、税務経理協会出版『ほけんの本(仮題)』5月刊行予定

◇オフィスベネフィット <http://www.officebenefit.com/>

◇ほけんペでいあ <http://www.hokenpedia.com/>

今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP 実務研究会事務局では、FP 実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集
中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方
は、税理士FP 実務研究会事務局【株日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。TEL 03-3340-4488